世界的ケーナの巨匠「ロランドエンシーナス　ジャパンツアー栃木公演

ROLANDO ENCINAS EN JAPON 2019 in TOCHIGI

南米ボリビアから、世界最高峰のケーナが帰ってくる

ゲスト：Ren（ケーナ）

ロランド・エンシーナス（アンデスの竹笛ケーナ）　ジュリアーノ・エンシーナス（ギター）

●牧野翔（ケーナ、シーク、お話）●アドリアン・エンシーナス（打楽器）●福田大治（チャランゴ）　ゲスト：Ren(ケーナ)

「コンドルは飛んでいく」で1970年代に有名になった、アンデス都市音楽フォルクローレ。その黎明期1960年代から活動するケーナのレジェンド、ロランド・エンシーナスが再び日本に。芸歴50年を超えてなお、毎朝5時から作曲に励み、毎年新作CDを制作するロランド。世界最高峰のケーナは止まらない！（民族音楽学者 牧野翔の解説付き）ツアーHP：　https://www.shomakino.com/rolandoquena2019

予定演奏曲：〈出会い / Encuentros〉、〈軍歌の響き / Taquito militar〉〈歌よ 君へと飛んでいけ / Vuela a tí〉〈アフロ・サヤ / Afro saya boliviana〉など。

11月16日（土）

［開場］13：30
［開演］14：00

会場　**足利市民会館別館ホール**
（栃木県足利市有楽町８３７）

［チケット］全席自由3500円　中学生以下2000円(当日500円増)

主催：㈱Ren音楽事務所　　後援：足利市

〔プレイガイド〕

足利市市民会館	０２８４－４１－２１２１
足利市民プラザ	０２８４－７２－８５１１
佐野市文化会館	０２８３－２４－７２１１
太田市民会館	０２７６－５７－８５７７
大泉町文化むら	０２７６－６３－７７３３
チケットぴあ　Ｐコード	１６７-５９５

お問合せご予約

チケットのご購入は QR コードからもできます▶▶▶

(株)Ren音楽事務所　tel 0284-64-9022　メール info@ren-quena.com

プロフィール

ロランド・エンシーナス（アンデスの竹笛ケーナ）

ロランドの演奏するケーナは、切り欠きによる歌口と管体に直接開けた指穴という、尺八に似た構造の竹笛だ。南米アンデス地域広範に広がる土着の笛を祖に持ち、20世紀前半には民族要素を強調するためにギターやマンドリンなどと一緒にアンデスの都市音楽フォルクローレに使われ始めたが、その土着性は、当時の西洋系住民から忌避されていた。しかし、ケーナは1960年代に欧州のラテン音楽ブームで取り上げられ、1970年にサイモン＆ガーファンクルの〈コンドルは飛んでいく/ If I Could〉により、世界中に知られることになる。その結果、ケーナやフォルクローレはボリビアでも評価が高まり、徐々にボリビア全体で受け入れられるようになっていったのだった。

ロランドはフォルクローレ黎明期1960年代より、音楽と舞踊の奏法を並行して修める。
フォルクローレの創始者の一人であり、世界的チャランゴ奏者エルネスト・カブールからケーナを与えられると70年代から各地の国際フェスティバルに一奏者として参加して名を挙げた後に、「フォルクローレ2000」、「ロス・パヤス」、「（最初期の）カラ・マルカ」、「ボリビア・マンタ」、「ワラ」などの時代の最先端を歩むバンドに参加。ソロ奏者やプロデューサとしてスルマ・ユガール、エンリケタ・ウリョア、アルミンダ・アルバ、ハイメ・フナロとも共演を重ねた。

1986年、徐々に単純化し、レゲトンなどの外来音楽に侵食されるフォルクローレに危機感をロランドが抱いていたころ、19世紀末から20世紀初頭の西洋とボリビアの混血（クリオーリョ）音楽に出会い、ロランドは魅了される。西洋のドヴォルザークやムソルグスキーにJ.シベリウス、中南米のマヌエル・ポンセやヴィラ＝ロボスのような、国民楽派（民族主義）の音楽にあたる混血音楽を復興させるために、ロランドは民族楽器オーケストラ「ムシカ・デ・マエストロス」を設立。このオーケストラは1989年の処女作発表以来、ボリビア音楽界の多様性の一角を担いつづけている。

ロランドは海外との縁も深い。欧米や日本へ3000回を超えるツアー・演奏を行った。1990年代初頭に、大手レコード会社キングレコードでのソロCD録音のために来日して以来、日本のファンを魅了しつづけている。

ボリビア、日本、欧米のどこにおいても世界最高峰のケーナ奏者と評され、50年以上の芸歴を持つロランドだが、その創作意欲はとどまることがない。標高3,600mの首都ラパスの寒い自宅にて、毎朝5時から作編曲を行い、毎年の新作CDを発表している。その進化し続けるさまは「生けるケーナの伝説」といえよう。

ジュリアーノ・エンシーナス（ギター）

ロランドの長兄ウンベルトの子。３０年近くに渡りロランドの伴奏を務め、上述のキングレコードのCDの録音でも、ギターを担当。ルス・デル・アンデや、福田大治とのトリオで来日した、歌手ウィルソン・モリーナとの活動も多い。最近スリムになり、ステージ上での立ち振舞もよりアクティブに！

牧野翔（ケーナ、シーク、お話）

１０年に渡り１５回以上のボリビア滞在をし、その成果を東京藝術大学にて民族音楽学の修士課程として修めた。日本では民俗オーケストラ「エストゥディアンティーナ・ボリビアーナ」を２０１２年より主宰。２０１９年は元ワイラ・ハポナンデスの桑原健一、グルーポ・カンタティの武田耕平との「東京リャマ計画」や、GWのお台場でのシクリアーダの世話役など、活躍の幅を広げている。

アドリアン・エンシーナス（打楽器）

ロランドの子。学校だけでなくラパス音楽院でも学び、ロランドのツアーにもたびたび参加。2017年はまんまるだったが、今や牧野の背を追い越すほど成長した。ボリビア音楽だけでなく、様々な音楽から着想を得て、自身の演奏の幅を広げつつある。

福田大治（チャランゴ）

1966年京都市生まれ。ボリビアチャランゴ協会（SBC、本部ボリビア）日本代表。90年代よりボリビアに計８年間暮らした後、現在までに南米各国の歴史的巨匠やトップアーティストと共演・レコーディングを重ねている。07年、非南米人アーティストとして初めて、ボリビア政府およびSBCより現代チャランゴ界最高位の勲章「マエストロ・ディプロマ」を授与。ラテンアメリカ事情全般にも明るく、複数の大学にて非常勤講師（スペイン語＆ラテンアメリカ社会論）として教壇に立っている。

ゲスト：Ren(ケーナ)

５歳からピアノ教育を受ける。筑波大学在学中に聞いたケーナの音色に心をうたれ、ケーナの演奏に身を投じる。筑波大学大学院修了時に本場南米を旅し、その後は中学校教師として教職に就くが、ケーナへの思いの強さから2008年4月ケーナ奏者としてプロに転向し本格的な演奏活動に入る。
世界遺産日光東照宮音楽祭での演奏をはじめ、加藤登紀子、田中健との共演など、南米民俗音楽フォルクローレにとどまらず、タンゴ、ジャズ、ポップス、日本の曲など、あらゆるジャンルの要素を取り入れた独自のスタイルで音色の追及を続けている。
8枚のアルバムの他『栃木県JAとちおとめ応援ソング』として、オリジナル曲「いちごの唄」を加藤登紀子が作詞しシングルCDとしてリリース。日本では数少ないケーナ奏者として全国各地でコンサートの他、ケーナ教室、ケーナ制作と幅広く活動を行っている。
足利市の観光大使「あしかが輝き大使」、栃木県観光大使「とちぎ未来大使」

ツアーHP：　https://www.shomakino.com/rolandoquena2019　　動画▶▶▶